

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	住宅建設業全般における職業選択を目的とした就職支援事業		
法人名	学校法人国際総合学園		
学校名	新潟工科専門学校		
代表者	池田 弘	担当者 連絡先	副校長 仁多見 透 025-287-3911
1. 事業の目的			
<p>住宅建設業においてはその分野に携わる人材の高齢化と慢性的な人手不足という問題を抱えている。一方で就職に対し消極的で自分の職業に対する適性が見つけない若者の増加という現象も問題となっている。そこで、本事業は若者に自分の適性を見つけさせ、人手の不足している業界に就職し、社会問題の解決の一助となることを目的とした。</p> <p>そこで本事業は、住宅建設業の代表する分野における技術を習得させるため、「建築大工技術講座」「造園技術講座」「設備技術講座」「施工管理技術講座」「CAD設計技術講座」の実施とそれぞれの分野で汎用性の高い特別教育（小型車両系建設機械、高所作業車、自由研削砥石取替え）とインターンシップを実施し住宅建設全般の技術・技能・知識の習得を目指した。</p> <p>本講座の目標として、講座全般を通じて職業における自分の適性を見つけ就職活動に生かしていくことと、受講生の満足度100%、就職率100%を設定した。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>住宅建設全般における技術及び技能の習得と適性を見極めに重点をおき、それぞれの分野の講座を1週間単位で実施することで講座全体にメリハリをつけることが出来た。又、特別教育で修了証を取得させることで自信を持たせ、講座と就職活動に対する動機付けに役立たせることをねらいとした。</p> <p>●開設講座数 : 5講座（各一週間）、特別教育（三種類）、インターンシップ（一日）          ●総授業時間数 : 126時間          ●開設期間 : 平成21年9月7日～平成21年11月4日（キャリアアドバイス及び実践的キャリアアドバイスは平成22年2月24日まで）          （内訳）          〈専門分野〉          住宅建設全般における専門講座 90時間</p>			

- ・ 建築大工技術講座
- ・ 造園技術講座
- ・ 設備技術講座
- ・ 施工管理技術講座
- ・ C A D 設計技術講座

〈特別教育〉

技能系特別教育 30 時間

- ・ 小型車両系建設機械
- ・ 高所作業車
- ・ 自由研削砥石取替え

〈実践教育〉

インターンシップ 6 時間

本プログラム合計 (126 時間)

※上記の他、キャリアアドバイスと実践的キャリアアドバイス 8 4 時間  
 O A 訓練 1 5 時間

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

受講生募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。

1. 新潟情報（タウン誌）での広告掲載（7 月 29 日、8 月 19 日）
2. 新潟工科専門学校 O B に情報提供の依頼文を送付
3. ジョブカフェ、若者サポートステーションなどの公共的機関でのポスター設置（8 月 6 日～8 月 28 日）
4. 新潟工科専門学校ホームページに募集案内を UP（7 月 27 日～8 月 28 日）

以上の方法で募集を実施した。効果としてはタウン誌によるものが有効であった。

応募状況は、定員 15 名のところ、5 名の問合せ（その内受講対象条件外が 1 名、連絡不通が 1 名、応募辞退が 1 名）であり、2 名の応募があったので面接と講座実施機関の施設見学を実施。本講座を受講する必要性が高いと判断し 2 名共受講対象者とした。

③受講者の状況

受講者 2 名の内訳は下記のとおりである。

男性 1 名、女性 1 名

年齢層は 2 名共 20 代（受講対象者として 20 歳～30 歳までとしている）

いずれも受講開始時点では定職に就いておらず、男性は高校時代より引き籠もりで外部での活動は皆無であった。女性は以前介護職を行っていたが自分の適性に合わず自宅で家業の手伝いを行っているとの事だった。

④受講者の意識調査等

受講者満足度は下記のとおりであり、目標達成という結果となった。

大変満足：1 名（50%） 満足：1 名（50%） 不通：0 名（0%）

不満：0 名（0%） 大変不満：0 名（0%）

### ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者2名中、2名が規定の出席時間数に達したため、修了証（学校教育法に基づく履修証明制度の対象となる履修証明証）を交付した。

修了者の2名共就職希望者であり、就職活動を行い、1名が正式に父親の会社（電気設備工事業）に就職し現場での作業を中心に働いている。1名は社会経験が無く就職活動を行うにしても一度社会を経験する必要があると思われるため、アルバイトで経験を積み就職活動に繋げていく予定である。又、本講座で自分の適性を見つけることが出来たので、更に高度な専門教育への誘導を考える。

## 3. 事業の評価に関する項目

### ①当初目的の達成状況

受講生の満足度は全体で100%であったが、講座就職者数は1名（50%）であった。自分の職業に対する適性を見つけることが出来た。

就職については、1名は本人が納得した上で自宅の会社に勤めることになった（受講前は自宅で事務的な手伝いだったが、本講座で経験したことを活かしながら本格的に自宅の会社の現場を中心とした仕事に従事している。）。

未就職者1名においては、今後も連絡をとり、状況を確認し支援していきたいと考える。従って、受講生の満足度と本事業の目的は達成。就職支援においては、受講生の能力に応じた対応となり多少課題が残った。

### ②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおり

1. 若年者における職業選択能力向上のための教育プログラムの実施と検証
2. 本プログラムを実施するための教育環境（施設及び人）の整備
3. 企業や団体との教育的連携体制の確立

尚、講座開始前の準備として「コミュニケーション能力の育成」や各論（各講座）の前の「総論的授業」を行うことで講座の全体像がより十分に理解できたのではないかと。今回はそれが無かったので講座と講座の関連性についての理解度は十分とはいえなかった。

### ③次年度以降における課題・展開

次年度以降の本講座の課題として下記の内容とする。

1. プログラム全体が理解できる講座と指導準備（コミュニケーション能力の基礎的指導）も必要。
2. 自分の適性を見つけた後のより高度な専門教育が必要。（当プログラムとして追加するのか他の教育プログラムへ誘導するのか）
3. 受講者の対象をどのレベルにするのかの検討が必要。コミュニケーション能力に差がありすぎると指導に支障が生じる。（年齢制限だけなのか、受講者の能力も視野に入れるのか、特にコミュニケーション能力の極端に低い受講生はどうするのか。）
3. 募集の方法として広く一般に知れ渡るようテレビ、ラジオ、新聞などの媒体を考える

ことも必要。

次年度以降の本講座の展開として下記の内容とする。

1. 本講座での課題をもとにプログラムを修正し、次年度以降のプログラム開発を目指す。
2. その修正したプログラムを開設し、教育プログラムの完成を目指す。

#### ④成果の普及

開発した教育プログラムとしての実績報告書を建設系技術の課程を持つ専修学校などを中心に配布するとともに、3月4日に新潟工科専門学校において、実施委員会メンバーを集めた実績報告会を開催し、本事業の実績報告と課題及び成果を議論した。